

大学院英語化——取組み4年目を迎えて 食品危害微生物制御学（後学期、金曜、3時限）

8/9/2015

食機能保全科学専攻 木村 凡

【2012年度（1年目）—とにかくがむしゃらに英語授業に突入！】

まずは、pptの英語翻訳を夏休みに集中的におこなった。翻訳は学生アルバイトに翻訳をお願いし、木村が最終的に修正して完成した。思った以上に時間がかかり、翻訳はかなりいい加減で不正確なものとなった。授業は不完全pptのまま、見切り発車した。

とにかく、英語化は初めてだったので、授業方式はこれまでの日本語授業を英語に切り替えただけのものだった。もちろん、学生に随時理解を確かめ、理解できていない部分は、日本語で説明した。また、質問に対して学生が答えられない場合は、その理由が英語力の問題なのか、日本語でも答えられない問題なのかを確認し、英語表現の問題の場合は、日本語で回答させ、こちらで英語に翻訳してみせてあげるなどした。

学生の反応は、しっかりついてきた者（積極的な者）2割、それなりに対応しているもの6割、ドロップアウト気味の者（あきらかにとまどっている感じ）2割と、3分された。

1年目は、とにかく、自身も学生も英語に慣れるということで、夢中で突っ走った感があつた。しかし、授業評価は比較的よかつた。日本語でおこなっていた授業評価と変わらなかった。

【2013年度（2年目）—2年目の油断と工夫なしの授業、反省多し！】

2年目は、海洋科学部長の仕事（2年目）が結構山積した時期と重なり、正直言って、授業準備に時間が取れなかつた。とりあえず、1年目で英語化に踏み切つたので、2年目も1年目と全く同じスタイルで、ぶっつけ本番で行つた。つまり、授業準備はゼロで、毎回、授業時間にpptをもって講義室へ出かけ、pptを英語で説明し、ポイントポイントで、学生に英語で質問やdiscussionの論点をなげかけ、英語で回答してもらおうというスタイルだった。学生はいきなり英語の授業を聞いたあと、質問も突然投げかけられるのでやや戸惑いが多かつたかもしれない。やはり、1年目同様、学生の反応は、しっかりついてきた者（積極的な者）2割、それなりに対応しているもの6割、ドロップアウト気味の者（あきらかにとまどっている感じ）2割と、3分された。

授業評価は1年目より少し下がつた。教員自身が、何も準備せずに、授業へ出向いている感じが学生にもひしひしと伝わつたのだと、反省しきりである。

【2014年度（3年目）—2年間の反省を生かして、授業方法を大幅変更】

2年目の工夫なしの、一方的英語授業に限界を感じ、これではいけないと思い、3年目は再び夏休みに、授業改革をめざし、授業準備万端をめざした。この年の改善ポイント

は大きく3つ。

- 1) まず、自身の話す英語。1, 2年目は、自身が英語を話すことに注意がとられ、【学生がわかる英語】を話すという意識があまりなかった。そこで、3年目は、とにかく、TOEIC 600点程度の学生が理解できる英語でしかしゃべらないように注意した（スピード、語彙、言い回し等すべて含めて）
- 2) 1, 2年目の授業では、授業中に突然学生に質問したり discussion を求めたりしたが、これは、学生にとって酷だったとの反省。そこで、3年目は、学生に予習してもらうことにした。具体的には、予習のための p p t と音声ファイルを授業1週間まえに配布した。次回のテキスト p d f 一式(日本語および英語)と日本語講義および英語講義の音声ファイル (MPEG 3形式) (毎回15分~40分程度、講義により長さ異なる) をメールで送付。最初は日本人むけに日本語の p p t と音声ファイルのみの予習を課したが、留学生たちから、英語の予習もしたいとの要望が途中であがり、3回目以降は英語 p p t と音声ファイルも事前配布した。
- 3) 1, 2年目の反省は、学生の授業参加が受け身にならざるを得ない授業運営をしてしまったこと。そこで、3年目は、毎回、学生に、授業当日は、事前予習のスライド内容について英語で皆の前で発表してもらうことにした。そして、その発表について討論型の授業をおこなった。毎回必ず、全員複数回、皆の前で発表する場におかれ、また、当日は、その場で適宜2, 3人ずつのグループをつくり、グループ発表させることで、個人個人であてられるより、学生たちは楽しく、また、事前にグループで学生同士で英語 discussion をしたウォーミングアップができ、その結果、皆の前での英語発表へのハードルが低くなり、話しやすくなったようだ。

3年目の授業準備は、当方としても、しっかり行ったので、3年間を通じて学生の反応が一番よく、授業評価も高かった。教員側の3年目の授業準備は半端ではないことは、学生にも伝わった感じがある。そこで、学生も予習をせざるを得なくなった感じがある。ただし、後から学生に聞くと、予習に膨大な時間がとられたとのコメントが多く、これについては、少しやりすぎたかなとの反省もある。しかし、すくなくとも授業としては、密度の濃い授業になったこと、また、【授業を英語化すると授業レベルが落ちる】という危惧は払拭された。

【そして、今年（4年目）の計画一本格的反転授業 flipped class へ！】

3年目の反省をいかして、4年目は次の改革を行う予定。

- 1) 自身の話す英語。TOEIC 600点程度の学生に完全に理解できるスピード、語彙、表現力をさらに磨く。4年目なので、こちらにも少し英語授業に対する余裕が生まれ、コツはつかめつつある。
- 2) 昨年は p p t と音声ファイルを別々に送るなどの、なんとも、不器用なやり方をおこ

なった。学生は p p t を見ながら、別ファイルの音声ファイルを聴かなくてはならず、とても予習がやりにくかったと思う。時間も不必要にかかったと思う。そこで、今年は、p p t のスライドショーに同時に音声を入力して、それを YouTube にアップロードする（限定アップロード）。学生は、メールで送られてきた YouTube の URL をクリックするだけで、完成された音声入りの p p t スライドショーを視聴できるようになる。また、p p t も 10～12 枚、時間も 15 分以内に限定してコンパクトな要点のみのスライドショーとする。さらに、アップロードの時期も 1 週間前ではなく、1 か月前程度にアップロードして、余裕をもって予習をできるようにする。

- 3) ことしは、毎回の授業のスライドショー最後で、授業当日の questions や discussion ポイントを事前に予告しておき、あらかじめ考えておくことができるようにする。

以上

===メ モ===